

「みんなでつくろう！賃上げがあたりまえの社会」

～2025春闘生活闘争勝利・参議院選挙勝利

福島中央総決起集会～



主催者挨拶をする澤田精一会長

「2025春季生活闘争勝利・参議院選挙勝利 福島県中央総決起集会」は、3月1日（土）福島市のまちなか広場において開催し、構成組織・加盟組合、県北地域連合から総勢500名が参加し、諸橋連合福島事務局長、菅井福島地区連合議長が議長を務めた。主催者挨拶で澤田精一会長は、日本海側、県内での豪雪災害、岩手県大船渡の大規模山林火災に触れ、除雪、排雪する人員オペレーター、重機、ダンプ等機材が不足している実態が明らかになっていること、人口減少、高齢化が進む地方においては、地震、豪雨災害等に加え、地域、自治体が連携し、豪雪対策を講じる必要があると認識し、今後の制度政策につなげていきたいと述べたのち、『私たちの生活は、物価高の影響により、昨年以上に厳しさが増しています。加えて、人材不足の深刻さが拍車をかけ、職場では一人ひとりにかかる仕事の負荷が増えています。

今年の闘争は、動き始めた賃金・経済・物価を安定した巡航軌道に乗せるための取り組みとなります。そのために

も、全ての組合が「月例賃金」にこだわり、昨年以上の賃上げを実現するとともに、「人への投資」によるセーフティーネットの強化を求めています。更に、賃上げが可能とするため公共調達部門を含めた、すべての分野での価格転嫁と適正取引の徹底を連合福島、各労働組合も求めています。働く仲間の力を結集し、社会的うねりをつくり、労働組合の意義と必要性を社会全体に示し、賃上げの定着を実現しましょう。

昨年の衆議院選で、与党の過半数割れが実現し、現在行われている、通常国会でも、今までの議論、景色が変わりつつあります。「働くことを軸とする安心社会」の実現のためには、連合、連合福島が社会的影響力をさらに高めることが必要であり、連合が政策実現に向けて連携する立憲民主党と国民民主党が一定の議席を確保することが重要です。

そのうえで第27回参議院議員選挙において「与党改選過半数割れ」の実現のために、両党を中心とする野党勢力の結集が大きなポイントとなります。

福島においては、5者協議会が全会一致で県選挙区「石原洋三郎」氏の支援を決定し、連合福島は県選挙区「石原洋三郎」氏、全国比例代表9名の候補予定者の推薦を決定しました。

先の衆議院選で、福島では、連合福島が推薦した全員の当選を勝ち取ることが出来ました。その流れ、勢いを参議院選につなげ、推薦候補者全員の勝利のため、連合福島、構成組織、地域・地区連合が一丸となって取り組みます。連合、労働組合の力を見せましょう。

今こそ、連合福島に結集する仲間が力を合わせ行動することで、社会を変えることが出来ます。

「みんなでつくろう！賃上げがあたりまえの社会」のスローガンのもと、2025春季生活闘争に勝利し、連合福島の力を総結集し、参議院選挙闘争に勝利をめざし、最後の最後まで、ともに闘い抜きましょう！』と決意を述べた。

引き続き、小熊慎司立憲民主党県連代表、渡部優生国民民主党県連代表代行、丹治千代子社会民主党県連副代表から連帯、激励のご挨拶を頂いた。

参議院選挙勝利福島県中央総決起集会の決意表明では、福島県選挙区立候補予定者「石原 洋三郎」、から強い決意が示され、各構成組織の比例区組織内候補予定者「岸 まきこ(自治労)」「田村 まみ(UA センセン)」「いそざき 哲史(自動車総連)」「平戸 航太(電機連合)」「郡山 りょう(JAM)」「浜野 よしふみ(電力総連)」「小沢 まさひと(JP 労組)」「吉川 さおり(情報労連)」「もりや たかし(私鉄総連)」においても各構成組織を代表して取り組みに対する決意が述べられた。続き、鈴木会長代行による「集会アピール採択」最低賃金対策委員会 田崎副事務局長による「最低賃金賃上げの取り組みの決意表明」が採択されガンバロー三唱では、全員で拳を掲げ春闘への決意を力強くアピールし集会を終えた。



決意を述べる石原 洋三郎
立候補予定者



決意を述べる澤村副会長 (自治労) (左)
大槻副会長 (電力総連) (右)



アピール採択する鈴木会長代行 (左) と
最低賃金のアピール採択をする田崎副
事務局長

集会終了後には、2つの梯団に分かれデモ行進を行い、福島市の中心街を「みんなでつくろう！賃上げがあたりまえの社会」「価格転嫁を！賃上げにつなげよう！」など、労働者・生活者目線の声を上げながら練り歩いた。

大変な盛り上がりの中に開催することができた。参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



ガンバロー三唱で決意アピール！



みんなで賃上げ！デモ行進！！